

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 国際教養大学

## 【構想の名称】(タイプB-I)

「日米協働課題解決型プロジェクト科目」の導入と日米教員協働プラットフォーム構築

## 【構想の概要】

日米協働課題解決型プロジェクト科目を導入し、国際社会で活躍するグローバル人材に必要な問題解決能力を育てる。また、日米教員協働プラットフォームを構築し、米国の大学と協力して、日米の大学教員が海外の大学で教育することで、教員の国際的な研鑽と学術交流の機会を増やす。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

### グローバル社会で指導力を発揮できる人材の育成

米国大学と協働で課題解決型科目を提供し、多様な価値観や意見が存在する環境で渉外力、調整力、事象分析力、柔軟性・協調性など、学生が今後世界で活躍するための基礎能力を身につけさせる。また、教員は協働教育を通じた海外大学教員との学術交流により、国際的資質を高め、専門性を強化する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### 日米協働課題解決型プロジェクト科目の実施

本学とオレゴン州立大学機構の教員が協働で約10単位の3-4年生向け選択必修科目を構築、開講する。双方から各4-8名程度の参加学生を募り、チームとして課題解決型フィールドリサーチを履修させる。この日米混成チームはそれぞれ4週間の調査・研究活動を行うことで、先進国地域で進行する問題群の多くは国・社会の違いを問わず存在することを現場で認識でき、さらにこれらはグローバル化の進展から直接・間接的に派生しつつ複雑な相関関係にあることを実践的に学ぶことが出来る。また、本取り組みはオレゴン州立大学機構の他、ペンシルバニア州のディキンソン大学での開講も目指しており、将来的には米国内の他の提携校および米国以外の国・地域の大学とも同様の科目開講を目指す。

### 日米教員協働プラットフォームの構築

「日米教員協働プラットフォーム」は日米の大学教員間の協働教育・交流を目的としており、「日米協働課題解決型プロジェクト科目」と同時進行で行われる。この科目の開講にあたり、双方の教員は事前の検討から科目の実施、授業評価に至るまでのプロセスを共有することになり、グローバル化社会に対応した大学のあり方を自国・自らの大学の枠を超え教育・研究を通して協議するプラットフォームが構築できる。また、双方の大学で定期的に特別講義を実施したり、グローバル化社会における大学の役割を意見交換したりする仕組みも併せて構築する。

秋田市雄和地区における

ヤマハゲの面・ケラ作り体験事業より



秋田県由利本荘市滝俣集落における  
田植え体験事業より



## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### リサーチ後発表会の実施

受講の成果はオレゴンと日本におけるフィールドリサーチ終了後に公開報告会や研修会として、大学内と調査対象自治体向けにそれぞれ実施する。3年後には本学、ICU、APU、早稲田からなる4大学連携協定校(Global4)からも参加学生を募り、将来的には米国内の他提携校として米国以外の他の国・地域の大学とも同様の科目の開講を目指す。

### 科目運営に関する公開報告会・研修会の実施

科目と同時並行で、日米の大学教員が「グローバル社会と大学の役割」を切り口に、国内他大学を招いてこのテーマや前述の「日米協働課題解決型プロジェクト科目」に関する国際シンポジウムや研修会を開催する。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### 確立された日本人学生派遣、留学生受入体制

英語授業、交換留学をカリキュラムの根幹とする本学において、学生の提携校派遣と留学生受入は、開学以来、通常業務の一環であり、事務局職員は英語対応が可能である。学生派遣については、専任教員がアドバイザーとして個別に相談に応じ、留学先での履修、学習、生活面に渡る総合的な支援を国際センターが行っている。また、単位認定に関するルールや手順も確立している。一方、留学生受入については、査証取得、オリエンテーション、カウンセリング、奨学金申請といった生活導入支援から、履修登録、成績・在籍管理といった教務部分まで、英語による情報提供と対応の体制が確立されている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### 本プログラムによる日本人学生の派遣と外国人留学生の受入

本学で必須とされる、1年間にわたる交換留学の枠組で行うため、本学からオレゴン州立大学機構への派遣学生、同機構からの留学生が各学期、各開講科目につき、同程度程度の参加となる。1科目につき各7名程度を想定しており、初回となる平成24年度は2科目、以降、段階的に、平成25年度は3科目、平成26、27年度は各4科目と開講回数を拡大させていく。参加学生数も比例して増加する。3年後以降、日本側の参加学生には、4大学連携協定校からの学生も見込まれる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	-	14	21	28	28
学生の受入	-	14	21	28	28